

## 外濠市民塾勉強会 2025 実施レポート

1. 実施概要
2. 講演詳細
3. フィールドワーク
4. 振り返りワーク
5. アンケート結果
6. 所感

# 1. 実施概要

---

## ■ 実施要項

### 企画タイトル

---

“外濠の現状を知り，未来の取り組みについて考える”

### 日時・会場

---

日時：2025年8月3日（火）14:00-17:30

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス田町校舎 1F

### 参加状況

---

学生：15名      教授：2名      その他：4名

合計：21名

### プログラム

---

- 1) 現在までの外濠についての講演（講師：高道昌志）
  - 2) フィールドワーク
  - 3) 振り返りワーク
- ① 外濠の魅力を考える
  - ② 過去の取り組みとその評価
  - ③ 外濠市民塾のこれからを考える

## ■ スタッフ・運営協力

### 主催：外濠市民塾実行委員会

---

委員長	陣内秀信（法政大学）
実行委員	福井恒明（法政大学）
	郷田桃代（東京理科大学）
	小松妙子（法政大学）
	高道昌志（東京都立大学）
	亀田和宏（大日本印刷）
	廣田幸司（大日本印刷）

### 運営協力

---

法政大学エコ地域デザイン研究センター  
法政大学江戸東京研究センター  
東京理科大学外濠及び神楽坂地域調査研究推進室  
東京都立大学大学院都市政策科学域 外濠研究チーム

# 外濠市民塾勉強会

テ  
マ

外濠の現状を知り、未来の取り組みについて考える

高道 昌志

東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 助教

詳  
細

2025年8月3日 14:00～17:30

法政大学 市ヶ谷田町校舎 1階 スタジオ HAL

外濠の歴史や現状を改めて見つめ直し、今後の市民主体の取り組みを検討するために、専門家による講演を通じて、かつて人々が自由に関わられた外濠の姿や、現在の利用制限の背景を学びます。講演とフィールドワーク踏まえ、外濠が持つ価値や今後の活用の可能性について意見交換を行い、外濠市民塾としての今後の方針を整理し、実現性の高い活動へとつなげていくことを目指します。

主催：外濠市民塾

問い合わせ：sotobori-c@ml.hosei.ac.jp

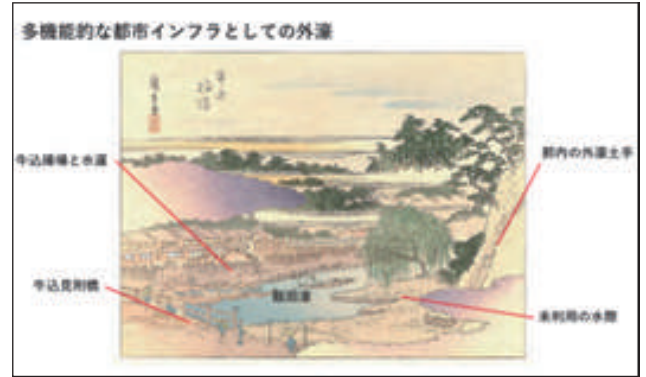
参加のお申込みはこちら →

サイト：<https://forms.gle/WHbigNodcNxKxcbs6>



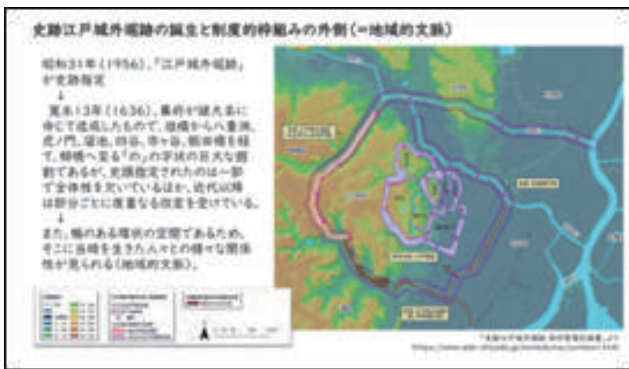
# 2. 講演詳細

## 1. 江戸城外濠の誕生と仕組み



1634年、天下普請により江戸城西方の外濠が開削された。自然地形や水系を活かし、掘削土で市街地（砂土原町・市谷田町）が造成された。外濠は水運・下水処理・都市境界など多機能な都市インフラとして機能。近世期には普請奉行が維持管理を担い、浮世絵などでも風景が描かれた。

## 2. 外濠とまち / 堀は地域の生活文化



1956年に「江戸城外堀跡」が史跡指定されたが、近代では必ずしも積極的に保全されず、残存部は「有効活用」を免れた部分。外濠は時代とともに分節化・水路化され、「風致」の観点から再評価された。番町・牛込（山の手）と神楽坂・飯田町（下町）という地域性の中で、外濠は屋敷地と運河という二面性をもった。

## 3. 飯田濠埋め立て問題と市民活動

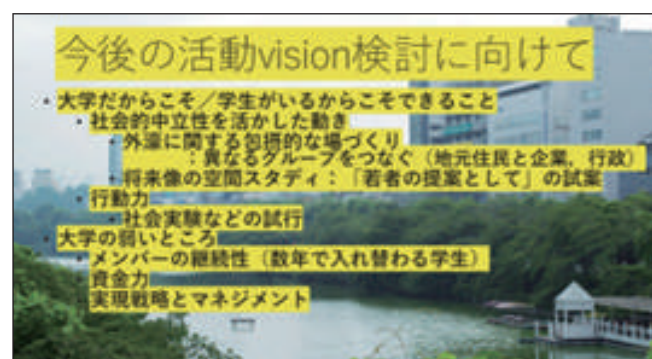
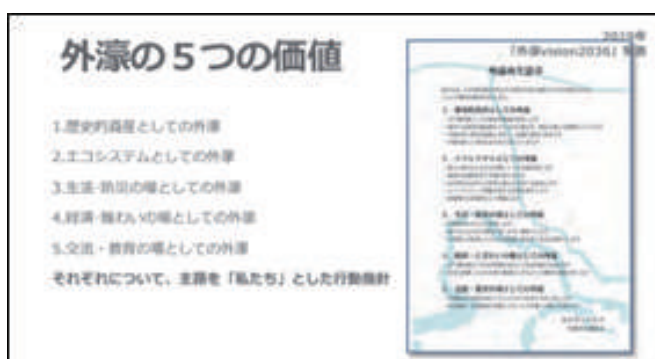


都心空洞化の中で外濠は放置され水質悪化。昔は釣りや木の実採取など、人々に親しまれる空間でもあった。東京都の飯田濠埋め立て計画に対し、地域住民による反対運動が展開。現在もその跡地には反対運動を記念する碑が残る。

## 4. 外濠市民塾の発足経緯



## 5. 行政的枠組みとの距離感について



千代田区や東京都で外濠への関心が高まる中、外濠市民塾はどのような立ち位置で関わっていくのが重要。行政と地域のあいだをつなぐ橋渡しのような存在として、双方の立場を補いながら、新しい価値や評価軸を発見し続ける活動体としての外濠市民塾を目指したい。

### 3. フィールドワーク

---

#### ■ 概要

---

各チームで話し合い、街歩きのルートを決めた後、外濠の魅力や市民塾がこれまでに行ってきた活動の現場を確認するため、フィールドワークを実施した。

A 班は飯田濠周辺、B 班は牛込御門周辺、C 班は新見附周辺、D 班は市ヶ谷駅周辺をそれぞれ探索した。

#### ■ フィールドワークの様子

---



## 4. 振り返りワーク

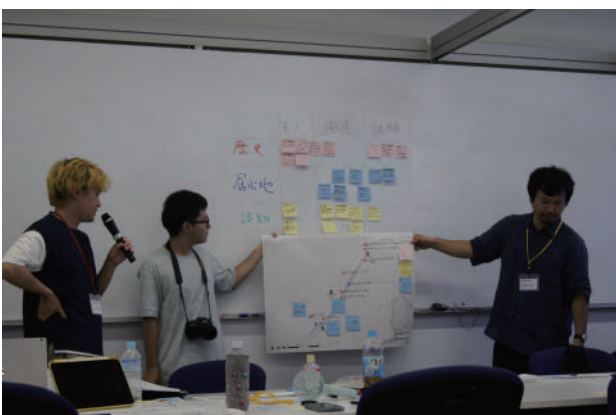
### 概要

振り返りでは、①外濠の魅力を考える、②過去の取り組みとその評価、③外濠市民塾のこれからを考える3つのワークを行った。

①外濠の魅力を考えるワークでは、各チームごとにまちあるきで見つけた魅力を歴史については赤い付箋、居心地の良さについては青い付箋、認知のしやすさについては黄色い付箋にまとめ、大判地図にプロットした。

②過去の取り組みとその評価のワークは、外濠市民塾や行政の外濠に対する過去の取り組みについて各チームごとに評価した。

③外濠市民塾のこれからを考えるワークでは、①、②のワークを踏まえ、今後、外濠市民塾でどのような活動ができそうかを考え、Google スライドにまとめて発表を行った。



## A 班振り返り

### ①外濠の魅力を考える

A 班は新見附橋、外濠公園を通り、神楽河岸跡、飯田濠埋め立て跡石碑、新見附右岸を巡った。外濠の右岸と左岸の高低差による景観の違いを前に、外濠の水面への近づけなさや、外濠公園の木陰の涼しさを感じながら、居心地の良さや認知のしやすさに関する意見が多く出た。飯田橋駅の史跡眺望テラスでは、開けた風景を楽しめた一方で、テラスに滞在する人は確認できなかった。また、飯田濠跡、ラムラにも石垣や石碑があるがその存在に気を留める人は少ない印象で、外濠という歴史性に対する取り組みの少なさと地域市民の繋がり希薄さを実感できたように思える。全体を通じて、外濠という歴史性、空間性に対して景観の整備やアクティビティの少なさ、全体の連続性のなさにより景観資源としての使われ方に課題があると感じた。

### ②過去の取り組みとその評価

コロナで市民塾内部での外濠への意識の継承が途切れ、組織としての発展の仕方が問われているのではないかとと思う。そういった中で、フォトコンテストやおぼんカウンターは、外濠への意識の継承を行う上で大切である。

### ③外濠市民塾の今後

A 班では、既存のおぼんカウンターを別の使い方を模索することによって、訪れた人がより外濠を感じられるようになるのではないかと考えた。そこで、既存のおぼんカウンターの活用案を提案する。具体的には、多くの人でにぎわう飯田橋駅・新宿区側の道路・外濠公園に外濠カウンターを設置する。これにより、外濠の使い方を改めて考えてもらう機会を提供する他、外濠が人でにぎわう様子を多くの人にみてもらえるのではないかと考えた。



活動場所



## B 班振り返り

### ①外濠の魅力を考える

B 班は、新見附～牛込見附の右岸側と左岸側を歩くことで両者を比較することができた。右岸側は、机やベンチ、遊歩道が整備されている点が居心地の良さに繋がっているという意見が多く出た。また、緑が多くセミの声が聞こえるなど、自然の豊かさも評価した。しかし、ベンチの周辺にゴミが溜まっている点が居心地の悪さに繋がっているという意見もあった。左岸側は草や木の手入れがされていなかったため水面が見えなかったなど、管理不足に関する意見が多く出た。牛込見附では歴史に関する意見が多く、牛込見附の石垣跡が残っており、案内板により歴史を継承している点を評価した。水門や水位調整の堰堤が残っているが、これらに関する案内板がなかったため、鉄道会社と協力して案内板を設置するなど、歴史の継承に関する議論ができた。

### ③外濠市民塾の今後

B 班では、緑の管理やごみの処理などを行い計画的な緑をつくる「グリーン活動」と、牛込見附周辺での「史跡めぐりスタンプラリー」を提案する。グリーン活動を行うことによって、水面の色がより透明になることやカヌーが見やすくなり、利用者の更なる増加が見込めると考えた。また、水辺に人の集まる場所を整備し、より一層のにぎわいを生み出すことができると考えた。外濠周辺を史跡めぐりスタンプラリーでは、案内板の設置を併せて行うことによって、外濠について多くの人に周知してもらえないのではないかと考えた。



活動場所

## ■ C 班振り返り

### ①外濠の魅力を考える

C 班は、新見附濠沿いを一周するように歩いた。大きく議題になったのが外濠公園であり、ポテンシャルが感じられる部分と課題点について話し合った。外濠沿いを歩く人は少ないものの、外濠に面して開けた場所にはベンチが設けられ、居場所としてのポテンシャルを感じた。木陰とそよ風により涼しく、セミの声と電車の音が重なる中で、都心にありながら自然を感じられる空間となっている。電車の走行音は気になるポイントではあるが、逆に都心の中にある外濠沿いに生い茂る自然を感じつつ、対岸を走る電車の音が聞こえ、都市と自然が交差するような居心地の良さを生み出しており、外濠公園の魅力の一部となっている。しかし、生い茂る木々は景観遮っているため整備する必要があるという意見が多く上がった。また、公園内には「東京市」と刻まれた時代の石標が残されており、市ヶ谷橋には当時の刻印が見られる石積みも存在する。いずれも外濠の歴史を感じさせる貴重な要素である一方、現在は視認性が低く、周囲の植栽によって存在が目立ちにくくなっている点が課題として挙げられた。

### ③外濠市民塾の今後

C 班では、より多くの人に外濠の魅力を知ってもらう、実際に活用してもらう提案を複数考えた。具体的には写真、絵葉書などのコンテスト、外濠宝探し、外濠キャンプ、外濠マラソン、川床利用などである。写真、絵葉書などのコンテストでは、感じたことを言葉にすることによってより知識が深まる他、それを見た読み手に新たな発見の糸口を与える。外濠宝探しでは、外濠の普段入っていないところやあまり気づかれない場所に謎解きや暗号を通じて誘導することで、隠れた魅力を発見してもらうことができるのではないかと考えた。また外濠キャンプ、マラソン、川床利用により外濠が人でにぎわい多くの人に行ってもらおうきっかけとなる



活動場所：外濠公園から見える対岸を走る電車



活動場所：公園内の様子



活動場所：「東京市」と刻まれた時代の石標



活動場所：水辺に近づけそうなポイント

## ■ D 班振り返り

### ①外濠の魅力を考える

D 班は、市ヶ谷濠の左岸側を歩き、主に外濠沿いの遊歩道、市ヶ谷の釣り堀周辺、市ヶ谷八幡、長延寺坂のスポットを巡った。外濠沿いの遊歩道では、水辺や緑を感じることができ、並走する中央線を見ることができる開けた空間であるため、景色に関する意見が多く出た。市ヶ谷の釣り堀周辺では、歴史的な石垣と水道橋を見ることができ、歴史性を感じることができた。また飯田橋方面の外濠の景色が綺麗といった意見も出た。市ヶ谷八幡では、歴史的な石が保存されており説明板が立てられていたり、墓石の再利用がされているなど、歴史性を感じることができた。また外濠沿いと比べて人通り、交通量が少なく、植栽が多く植えられており緑を感じることができたため、居心地の良い空間であったという意見が多かった。

### ②過去の取り組みとその評価

水面利用のハードルの高さ、手続きの困難、物理的な問題、水に触れる機会の増加が必要。定常的な拠点がない。イベントとイベントの間の日常が必要。外濠を発信する具体的な場所が必要。外濠を知らないことが問題。子供向け勉強会の開催は未来につながる。プロジェクションマッピングは夜の外濠を照らし、夜の外濠の水辺空間に注目を集めるため良いと思う。外濠市民塾に参加していない多くの人に外濠の魅力を伝える必要がある。外濠の価値をもっと広く知らせる工夫を考える必要がある。

### ③外濠市民塾の今後

SNS の炫きを拾い、データとして AI を活用し、作成したものをワークショップを通じて意見交換を行う「令和 外濠名所 100 景」を提案する。今回提案する活動は参加者を限定しないことにより、外濠の魅力をより多くの人に伝えることができる。



まちあるきで見つけた外濠の魅力



## ■ 振り返りの総括

### ◎共通して見えた外濠の魅力

#### ① 都心に残る貴重な自然と水辺空間

すべての班で、外濠が「水面」「緑（木陰・植栽）」「風・音（セミの声、電車の音）」といった要素を通じて、都心にありながら自然を体感できる空間である点が評価された。特に、木陰やそよ風、水面の近さは、真夏でも「居心地の可能性」を感じさせる要素として共通して挙げられた。

#### ② 水・都市・交通が重なる外濠ならではの景観

中央線や街並み、橋、石垣と水面が重なり合う景観は、A・C・D班を中心に、外濠にしかない都市的な魅力として認識された。電車の音や走行風景は単なる騒音ではなく、「都市の中にある水辺」であることを実感させる要素として捉えられている。

#### ③ 歴史的資源が今も点在して残っていること

石垣、石碑、刻印、地形など、外濠が江戸から現代に至る歴史を内包した空間であることは、全班で共通認識となった。外濠は単なる公園や水路ではなく、都市の成り立ちを体感できる歴史空間である。

### ◎共通して浮かび上がった課題

#### ① 「見えにくさ」「気づかれにくさ」という構造的課題

全班に共通して、「植栽により水面や石垣が見えない」「階段や水辺への導線が分かりにくい」「公園や史跡の存在自体が目立たない」といった、外濠の存在や魅力が認知されにくい状況が指摘された。魅力が「無い」のではなく、「見えない」ことが最大の課題である。

#### ② 歴史が“残っている”が、“使われていない”

説明板や石碑は存在するものの、「読まれていない」「楽しまれていない」「生活や活動と結びついていない」という状況が多く、班で共有された。歴史資源が点在し、体験やストーリーとしてつながっていないことが課題として浮かび上がった。

#### ③ 居心地のポテンシャルと実際の利用のギャップ

ベンチ、木陰、眺望など居心地の要素は揃っている一方で、実際に滞在している人は少ないという指摘が複数班から挙げられた。暑さ、管理状況、アクティビティの不足が、「居心地の良さが行動につながらない要因」となっている。

---

## ◎外濠市民塾及び市民塾以外の活動に対する意見

### 1. これまでの取り組みの成果

外濠市民塾や関連活動は、イベントやフィールドワークを通じて外濠への関心を高める役割を果たしてきた。特に水辺に近づく体験やアクティブな活動は、参加者の実感を伴う学びにつながっている。

### 2. 浮かび上がった課題

一方で、水面利用には制度・安全面のハードルが高く、活動がイベント単発になりがちである点が課題として共有された。また、外濠を日常的に発信・活用する拠点や仕組みが不足しており、市民塾外への認知も十分とは言えない。

### 3. 今後に向けた方向性

今後は、大きなビジョンのもとで水辺体験を段階的に広げ、定常的な拠点や社会実験的な取り組みを通じて、外濠との継続的な関わりを生み出していくことが求められる。

## ◎外濠市民塾のこれからを考える

---

### 日常的な関わりを生む活動提案

#### ・ グリーン活動

外濠公園を中心に、緑の管理やごみ処理を行い、計画的な緑と居場所をつくる活動。水面の見通し改善やにぎわい創出につながり、外濠を常に感じられる環境づくりを目指す。お盆カウンターなど既存の活動とも親和性が高い。

#### ・ 外濠カウンター社会実験／川床利用

飯田橋駅周辺や外濠公園にカウンターを設置し、外濠を使う風景を可視化する実験的取り組み。将来的には、ランチ利用や水辺に触れられる公園整備へと発展する可能性が示された。

---

### 認知拡大・回遊を促す活動提案

#### ・ 史跡めぐりスタンプラリー／外濠宝探し

看板設置や謎解きを通じて、普段気づかれにくい史跡や場所へ人を誘導する企画。外濠の歴史や隠れた魅力への気づきを促す。

#### ・ 外濠マラソン

外濠周辺を走ることで、広域的に外濠を体験し、魅力を再発見する機会をつくる。他大学との連携や競争要素も期待される。

---

### 外濠の魅力を「共有・蓄積」する活動提案

#### ・ 令和外濠名所 100 景

SNS の投稿を活用し、AI 分析とワークショップを通じて外濠の魅力を可視化する取り組み。対象を外濠全体に広げ、多様な人の視点を反映する点が特徴。

#### ・ コンテスト（写真・絵葉書・絵手紙・俳句）

創作を通じて、外濠の「良い場所」「映える場所」を発見・共有する企画。外濠の新たな見方を蓄積する機会となる。

---

## ◎運営面の振り返り

---

### 継続して行うこと

---

- ・外濠の歴史や現在の外濠に関する講演  
→街歩きを行う前に、外濠に関する学びを得ることで街歩きでの発見に生かされる
- ・外濠を活用した取り組みや、水質改善に向けた取り組みをまとめた資料  
→振り返りの際に、街歩きでの発見とともに新たな活用方針を考える際に役立つ
- ・事前に街歩きのルートを計画する際のマップに、外濠の史跡や重要なポイントを示す  
→街歩きで外濠の歴史や現在の使われ方を知る機会をルートに組み込むことができる
- ・街歩き後の振り返りシート  
→街歩きで見つけたことをマップや言葉として残すことで可視化され今後に生かせる
- ・振り返りマップへの書き込みを要素ごとに分類しておく (ex 歴史・居心地・認知度)  
→外濠の今後の活用の仕方や改善が必要な個所を把握できる
- ・振り返りマップや見つけた魅力を参考に新たな活動を考える機会  
→外濠に関する知識のインプットだけでなく、今後を見据えたアウトプットが可能

---

### 問題点や課題点

---

- ・振り返り時間の短さ  
計3時間20分の構成だったが、街歩きの時間を1時間ほどに収め、今後の外濠の活用を考える時間を1時間30分ほど設けるとよい
- ・街歩きの成果物はA1でも前で発表するには小さく、見づらい  
→マップは写真を撮ってスクリーンやモニターに映すとよい
- ・振り返りマップの要素の分類を、外濠の今後の活用方針でも同じ軸で考えてもらう  
→街歩きとの一貫性を持たせることで、よりまとまりのある的確な意見となる

---

### 今後の展望

---

- ・事前学習 街歩き 振り返り 未来の提案をワンセットとし一貫性を持たせる。  
→事前学習で得た知識を実際に街歩きで発見し、これらに基づくアウトプットをする
- ・振り返り・提案パートの強化  
→特に提案パートは、目的を明確にする。特に時間配分については今回の結果から逆算して考える。  
(ex 自分たちでできること or 大学や行政が必要なもの)
- ・提案を実現するために主催側ができることをする  
→提案をもとにした社会実験や参加者がかわり続ける仕組み (コラボイベント・雑誌等)
- ・街歩き成果マップのデジタル化・アーカイブ化  
→外濠の変化や自分たちの活動の効果を一目で見ることができる

## 5. アンケート結果

---

参加者に対して今回の企画についてのアンケートを実施し、3件の回答を得ました。回答の集計結果は以下の通りです。

今回のプログラムを通して感じた感想や、新たに学んだことなどがありましたら教えてください。

---

- ・ 今までの外濠市民塾の活動内容を新たに知ることができた。特にフォトコンテストでは、外濠の魅力の発見につながる活動として印象に残った。また、外濠を実際に歩いてみて、今までに知らなかった現状や外濠との関係性について考えることができた。
- ・ 高道先生の講義で外濠の歴史や文化を学んだ後に時間をかけて外濠をじっくりと観察することで新たな発見や課題など知ることができました。
- ・ これまでの市民塾の活動を振り返ったことにより、新たなアイデアを次々出すことが容易にできたこと。

今回の活動を評価してください（5段階評価）。

---

- ・ 5            × 1
- ・ 4            × 2
- ・ 3            × 0
- ・ 2            × 0
- ・ 1            × 0

フィールドワーク・振り返りを通してよかった点、改善点はありますか。

---

- ・ 学生のユニークなアイデアは勉強になりました。
- ・ 今まで知らなかった新見附周辺スポットを知ることができた。遅延が発生したため、今後スケジュール調整をする際留意する必要がある。

今後やってほしい活動はありますか（話を聞いてみたい人でも可）。

---

- ・ 今回、フィールドワークで地元のご老人から飯田橋付近の歴史を聞く機会があり、昔から住んでいる方のお話を聞く企画も面白いと思いました。
- ・ 一般の方に多く参加していただき、さまざまな意見を賜りたい。

今後も外濠市民塾のイベントに参加してみたいと思いますか（選択式・単一回答）。

---

- ・ ぜひ参加したい            × 2
- ・ 予定が合えば参加したい   × 1
- ・ まだわからない            × 0
- ・ 参加しない                × 0
- ・ 無回答                      × 0

## 6. 所感

---

### 横江玲奈（運営メンバー 法政大学）

今回の勉強会は、高道先生の講義、フィールドワーク、過去の取組の学習、今後の活動の検討という段階的な構成により、外濠を多面的に捉え直す機会となりました。まず講義を通して外濠の歴史や市民塾発足の経緯を理解し、基礎知識を得た上で現地に赴き、魅力と課題を具体的に把握することができました。さらに過去の取組を学ぶことで先輩たちの実践を知り、それらを踏まえて今後の活動について議論を深めることができました。多岐にわたる企画内容でしたが、各段階が相互に関連することで理解が精緻化された感覚がありました。今後の活動は今回の勉強会で得られた知見を、外濠市民塾の中だけで完結させず、外部への発信につなげるような活動を展開していきたいと思えます。

### 辻川大心（運営メンバー 法政大学）

外濠市民塾勉強会 2025 では、高道先生による講演及びフィールドワークを通じて外濠の歴史的背景や現在の取り組みについて理解を深めることができました。その後に関後の外濠の在り方に関するアイデアの創出を行い、各班から多様で魅力的な提案が示されました。今後はこれらの提案にとどまらず、外濠の現地における主体的な活動の創出を促すとともに、参加対象を広げ、外濠の魅力や価値を広く発信する取り組みを展開していきたいと考えています。

### 海野太郎（運営メンバー 東京理科大学）

今回の企画では、「外濠勉強会」というテーマのもと、私たち運営陣にとっても多くの学びがあり、大変貴重な機会となりました。企画を考えていくうえで、コロナ禍により市民塾内で外濠に関する知識や活動の共通認識の有無が二極化していると感じました。そうした状況のなかで、参加者の皆さんとともに「外濠」に対して基礎から学ぶ貴重な機会を設けることができましたと思います。その中で個人的には、濠が多機能的な都市インフラの役割を果たしているのが浮世絵から分かるというのが興味深かったです。全体を通して外濠の歴史から、それを取り巻く市民活動、そしてどのようにして現在の私たち外濠市民塾があるのか、自分たちの立ち位置の再認識につながりました。今後は、こうした学びの機会をさらに外部にも開いていくことが外濠市民塾全体の課題であると感じています。そのためにも、今回の企画で築いた共通認識の土台のもとで次回以降は対外的な発信につながる活動を展開していきたいと考えています。

### 川野研登（運営メンバー 東京理科大学）

今回、初めての全体企画への参加となりました。これまで街歩きチームとして市民塾の活動に参加する中で、直川君や會田君の外濠に対する知識についていくことができず、外から活動を見ているように感じることも多々あったため、外濠に関する知識をつけるいい機会でした。レクチャーを受けてから街歩きをすることによって、歩く際の視点が変わることを実感できました。まち歩きでは実際にもものを見ながら説明を受けるため、説明を受けている場所にフューチャーして試みることになりましたが、事前にレクチャーを受けて自由にまち歩きをすると、知識をもとにした各々の視点で外濠を見ることができるようになるため、より幅広い発見が得られると感じました。それがその後のグループワークにも活かされていて、多様なアイデアを引き出すことができたのではないかと思います。これからも、固定観念にとらわれない魅力を引き出す活動の一助になればと考えています。

### 會田龍一郎（運営メンバー 日本大学）

これまでのフルセット企画では、参加者の外濠への関心を高めていただくことを目的に、まず外濠に関する情報をお伝えした上で、実際にフィールドに出て成果物をつくり上げていただく形式をとっていました。しかし、今回は成果物の制作に加え、次回の活動へとつながるようなアイデアまで発案していただく形式としました。参加者の皆さんにアイデアの提案までお願いするのは初めての試みだったため、当初は少し不安もありましたが、各班から魅力的な案が多く発表され、大変心強く感じました。同時に、これからの活動がさらに広がっていくことへの期待も膨らみました。今後も皆さんからいただいたアイデアをもとに、さまざまなアプローチを検討し、外濠のさらなる魅力向上や今後のあり方について提言できるよう、活動を推進していきたいと思えます。



# 外濠市民塾

SOTBORI SCHOOL FOR CITIZEN